

令和7年度大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰の概要について

目的

学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮しており、他の大学等や企業等に普及するのに相応しいモデルとなり得る、産学協働による学生のキャリア形成支援活動を、グッドプラクティスとして表彰し、その成果を広く普及する。

公募期間：令和7年11月4日～12月19日

申請対象：令和6年度又は令和7年度に大学・短期大学・高等専門学校において実施された学生のキャリア形成支援に係る取組のうち下記の選考基準を満たすもの

申請件数：46件（大学：42件、短期大学：4件）

表彰：【最優秀賞】金沢工業大学
【優秀賞】豊田工業大学、日本大学、広島大学
【選考委員会特別賞】筑波大学

大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰選考 基準・項目

- ① 就業体験を伴うこと
- ② 正規の教育課程の中に位置付けられていること
- ③ 大学等の組織的な取組として位置づけられていること
- ④ 実施後の教育的効果を把握する仕組みが取られていること
- ⑤ 5日間以上のキャリア形成支援活動の就業体験期間が確保されていること
- ⑥ 大学等と企業等が協働した取組となっていること

受賞校一覧

大学等名	科目名	取組概要
金沢工業大学 最優秀賞	コーオププログラム コーオプ実習	企業と共同でカリキュラムを設計し、学生は4か月程度の長期就業を通じて専門知識を実社会で活用。給与支給により責任ある業務を担い、実践力を養うプログラムを実施。 ・対象：コーオププログラム 全専攻修士1、2年生・大学院進学予定の全学部4年生 選択科目 コーオプ実習 全学部1～4年生 選択科目 ・参加学生：コーオププログラム12名、コーオプ実習13名 ・事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：コーオププログラム 4か月程度 コーオプ実習 1～2か月程度
豊田工業大学 優秀賞	学外実習Ⅰ 学外実習Ⅱ	学外実習Ⅰ（1年次）では主に生産現場でモノづくりの実作業を、学外実習Ⅱ（3年次）は企業の研究・開発現場や生産管理現場で技術的課題の解決に取り組むプログラムを実施。 ・対象：工学部1、3年生 必修科目 ・参加学生：学部1年生103名、学部3年生111名 ・事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：学外実習Ⅰ 4週間、学外実習Ⅱ 5週間
日本大学 優秀賞	生産実習	3年次学部共通の「必修・通年科目」とし、1年間を通じた幅広い知識と能力を関連付け、目指すべき技術者像を養う。約1,000機関の実習先を準備し産学連携によりオンラインプラットフォームを整備。 ・対象：生産工学部3年生 必修科目 ・参加学生：1,623名 ・事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：2週間以上（実働10日間以上）
広島大学 優秀賞	長期フィールドワークⅠ 長期フィールドワークⅡ	卒業論文に代わる必修科目として位置づけ、教育課程に組み込んで実施。地域の主要企業やグローバル企業に長期派遣し、給与を受けながら研究開発や業務に従事。 ・対象：情報科学部3、4年生 必修科目 ・参加学生：18名 ・事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：4か月×2回
筑波大学 選考委員会特別賞	TIASインターンシップA TIASインターンシップB	国内外のスポーツ組織や行政機関、国際的に活動するスポーツ関連企業等における4週間以上のインターンシップの中で体系的かつ包括的に実務を経験。学修成果は修士論文のテーマにも連動。 ・対象：人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 スポーツ・オリンピック学学位プログラム 博士前期課程1、2年 必修科目 ・参加学生：7名 ・事前・事後学習（実施計画・実施報告書作成）を含めた企業等での就業体験日数：4週間以上

金沢工業大学 「コーオププログラム」、「コーオプ実習」

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的:ディプロマ・ポリシーで掲げる「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」の育成を目的として長期有給の就業体験を実施している。

対象:(コーオププログラム)全専攻修士1、2年生・大学院進学予定の全学部4年生、(コーオプ実習)全学部1~4年生

概要:企業と大学が共同でカリキュラムを設計し、学生は4か月程度の長期就業を通じて専門知識を実社会で活用する。給与支給により責任ある業務を担い、実践力を養う。実務家教員による現場指導と大学教員のサポートを組み込み、産学官の連携による人材育成の基盤を構築しています。WIL(Work Integrated Learning)の理念に基づき、世界標準(WACE準拠)の産学協同型教育モデルとして、ひとりひとりが未来を切り拓く社会の創造を目指す。

評価のポイント

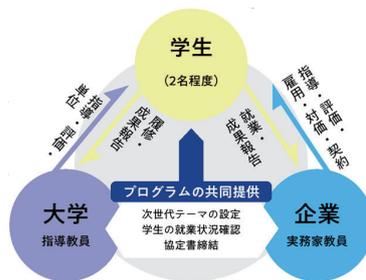
- 大学全体で推進するコーオプ教育の一環として、4か月規模の実習を配置することで、大学での学修と企業での実践を往還させる仕組みが整備され、工学教育と実務を高度に接続した教育モデルを構築している点が特徴的である。地域企業との協働体制が成熟しており、DX人材育成等の産業界のニーズに即した学修機会が継続的に提供されている。
- 企業との協働体制が大学全体で構築されており、実務家教員の招聘や企業50社との連携による受入環境の整備など、産業界・地域社会との継続的な協働が推進されている。また、学生を「社員」として受け入れる形態を含む実践的な枠組みを工夫することで、学内外のリソースを活用しながら実務に近い環境での学修機会が提供されている。
- 世界産学連携教育協会(WACE)基準に準拠した独自のプログラムを行うとともに、実習前後の評価や企業との連携状況を踏まえた教育改善に取り組むなど、プログラムの質保証に向けた組織的な体制が整備されている。大学の学びと社会実践を結び付ける教育モデルとして、次世代人材育成に貢献している。

【取組の実施年度:令和6年度

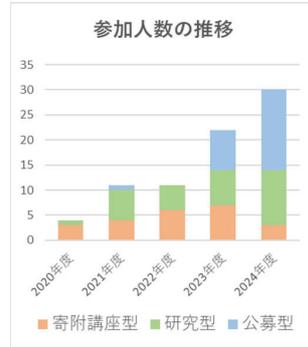
申請分類:タイプ3(汎用的能力・専門活用型インターンシップ)】

問合せ先

金沢工業大学 進路開発センター(コーオプ教育担当)
Tel: 076-294-6700 E-mail: intern@kanazawa-it.ac.jp



プログラムの流れ



豊田工業大学 「学外実習Ⅰ」、「学外実習Ⅱ」

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的:「産学一体の生きた工業教育」の基本方針に基づく取組であり、全学部生が履修する必修科目として、1年次および3年次に、継続して実施し、その成果を4年次以降の研究室活動やキャリアデザインへ発展させることを目的としている。

対象:学部1、3年生

概要:学外実習Ⅰ(1年次)は主に生産現場でモノづくりの実作業を体験し、学外実習Ⅱ(3年次)は企業の研究・開発現場や生産管理現場で技術的課題の解決に取り組む。学外実習Ⅰで得た経験が2年次以降の専門分野の学修へと繋がり、その成果を応用する学外実習Ⅱが4年次以降の研究室活動やキャリアデザインへ発展する継続的なプログラムとなっている。

評価のポイント

- 工業分野に特化した教育目的のもと、1年次、3年次に長期の就業体験(4~5週間)を正規課程に組み込み、技術者育成を見据えた段階的カリキュラムを整備している。地域の工業系企業との連携により、産業界のニーズや実務で求められる技術に触れられる環境が確保されており、大学のディプロマ・ポリシーと整合した学修機会が提供されている。
- 教員と事務職員が協働して運営を担う体制が構築されており、学内の進捗共有や個別指導が丁寧に行われている。また、企業が実務に基づく調査分析・データ処理等のテーマを設定し、学生が企業の一員として責任ある役割を担うことで、修得した工学知識を課題解決へ応用する機会が確保されている。加えて、外部評価の導入により、第三者の視点を取り入れた質保証が図られている点も特徴的である。
- 卒業後の状況把握を実施することで、キャリア形成への長期的な効果を検証できる仕組みが整備されている。

【取組の実施年度:令和7年度

申請分類:タイプ2(キャリア教育)、タイプ3(汎用的能力・専門活用型インターンシップ)】

問合せ先

豊田工業大学 学生部学生グループ
Tel:052-809-1738 E-mail: gakugai_jissyu@toyota-ti.ac.jp



学外実習の学修ポイント「学外実習Ⅰ・Ⅱ」で何を学ぶか〜10のアドバイス〜

1年次 学外実習Ⅰ			
01 生産作業	02 安全管理	03 生産工程	04 生産技術
05 品質管理	06 生産管理	07 設計技術	08 製品開発
09 研究体制	10 職場の人間関係		
3年次 学外実習Ⅱ			
01 技術問題の理解	02 技術問題の見つけ方	03 技術問題解決の手順	04 技術問題解決の仕組みの理解
05 論理的推論の向上	06 工学知識と経験的知識	07 工業技術の幅広さ	08 表現力と発表力
09 責任感の大切さ	10 企業組織への理解		

日本大学 「生産実習」

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的:本科目の目的である「実践と統合」に基づき、ディプロマ・ポリシーに対応した学習到達目標①「経験を学びに変える力」、②「生涯学び続ける力」を定め、ジェネリックスキルとテクニカルスキルの両面からその達成を支える7つのアウトカムズをねらいとしている。

対象:生産工学部3年生

概要:3年次学部共通の「必修・通年科目」とし、1年間を通じた幅広い知識と能力を関連付け、目指すべき技術者像を養う。個別最適な実習を促すため官公庁から大企業・中小企業まで含め、海外や国内主要都市、地方などでの様々な職種で多岐にわたる就業体験ができるように約1,000機関の実習先を準備、産学連携によりオンラインプラットフォームを整備している。また、学部の全教員が担当教員として学生一人ひとりへの支援を行い、個別最適化を実現している。

評価のポイント

- 約1,600名の学生に対し1,000を超える提携機関を確保し、学生が自らの志向に応じて実習先を主体的に選択できる環境を整備している。
- 学部全体で教員・事務職員・受入機関が協働する運営体制を構築し、プログラムの目的・体系化を明確化している。企業向け概要説明書の配布や企業が習得可能な基礎力の開示を必須化することで、実習テーマと学修目標の整合を図るとともに、学生が実務内容を理解したうえで参加できる情報基盤を整えている。
- 独自のマッチングシステム(NOTES/SYSTEM)を活用することで学生・企業・大学の三者が、共通でキャリア開発状況を可視化し、個別最適化が実現されている。外部測定を取り入れた効果検証に加え、中間的な振り返りを促すことで後半の学修動機を高めている。また、インターンシップ体験を後輩に共有し、動機付けさせる仕組みを整備している。

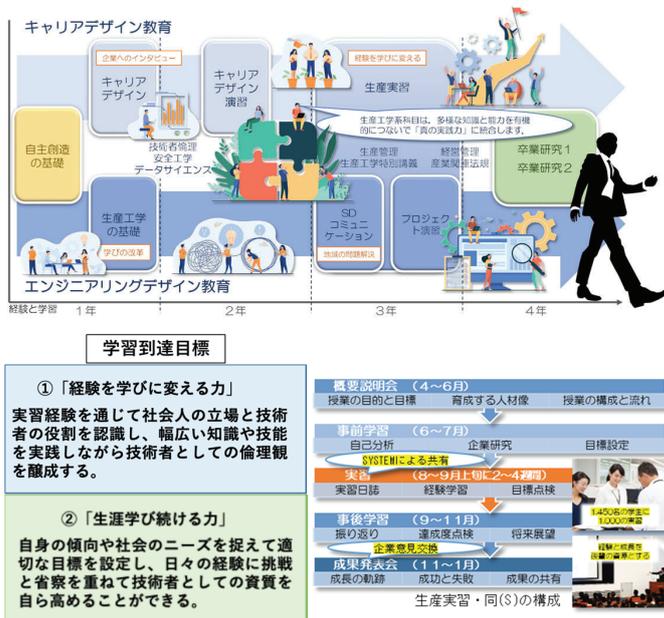
【取組の実施年度:令和6年度

申請分類:タイプ3(汎用的能力・専門活用型インターンシップ)

問合せ先

日本大学 学務部学務課

Tel: 03-5275-8115 E-mail: adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp



広島大学 「長期フィールドワークⅠ」、「長期フィールドワークⅡ」

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的:大学で修得した理論的知識を企業での長期有償インターンシップに結びつけ、情報科学分野における高度な課題解決力と即戦力を備えた人材を育成することを目的とし、学生は企業の現場で課題を発見し、データ分析や論理的思考を通じて解決策を導く力を養う。

対象:情報科学部3、4年生

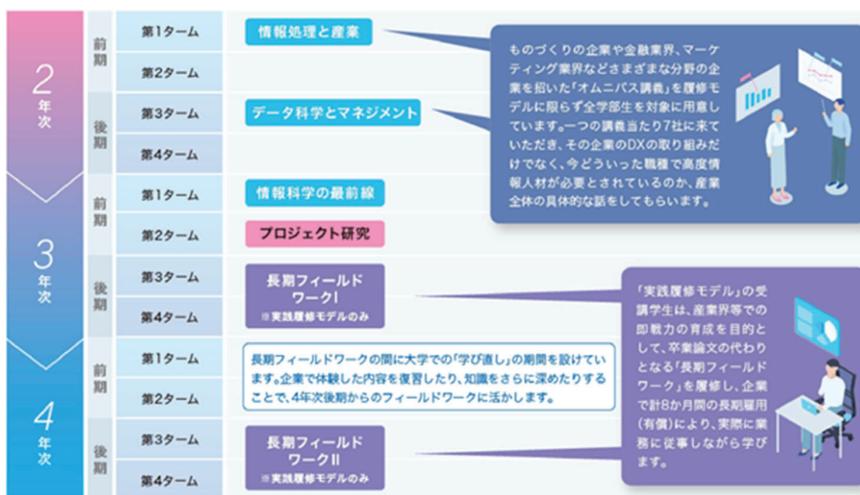
概要:卒業論文に代わる必修科目として位置づけ、教育課程全体に組み込んで実施している。学生は地域の主要企業やグローバル企業に長期派遣され、給与を受けながら研究開発や業務に従事する。公開形式での成果報告を実施することで学修成果を社会実装へと結びつける体系的な教育課程を構築。

評価のポイント

- 基礎科目から演習、長期フィールドワークへと段階的に学修を積み上げる体系を、卒業論文に代わる必修科目として正規課程に位置付け、3・4年次にそれぞれ4か月の就業体験を配置している。高度DX人材育成を見据え、実際の企業課題に長期間関わることのできる教育設計となっており、大学での学修と企業現場での実践を往還させる仕組みが整備されている。
- 派遣前後のスキル測定やアンケートによる定量的評価に加え、卒業後の進路まで追跡する長期的な調査を実施し、得られた結果を教育改善へ反映するPDCAサイクルが機能している。短期的成果だけでなくキャリア形成上の効果を継続的に把握する仕組みが整備されており、実習の教育的意義を多角的に検証する体制が構築されている。

【取組の実施年度:令和7年度、

申請分類:タイプ3(汎用的能力・専門活用型インターンシップ)



問合せ先

広島大学 工学系総括支援室(情報科学部担当) Tel:082-424-7611 E-mail: kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的:本科目は、国内外のスポーツ組織や行政機関、国際的に活動するスポーツ関連企業等で4週間以上のインターンシップを行い、体系的・実践的な経験を積むことを目的とし、実務環境の中でキャリア理解を深めるとともに、英語を基調とした国際環境での活動を通じて、コミュニケーション力やスポーツ・オリンピック学の応用力を養う。

対象:人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 スポーツ・オリンピック学学位プログラム 博士前期課程1、2年生

概要:国内外のスポーツ組織、スポーツ行政機関、スポーツ関連企業等における4週間以上のインターンシップの中で学生は体系的かつ包括的に実務を経験する。また、実際の業務環境を通じてキャリアへの理解を深めるとともに、その学修経験を修士論文テーマへ連動させ得る点に特徴がある。学生は英語を基調とした環境の中で国際的コミュニケーション力を高め、スポーツ・オリンピック学に関する能力を実践的に養成するなど多角的な能力を養う。

評価のポイント

- 大学院教育と直結した必修科目として位置づけられており、修士論文の研究計画と連動させながら海外の受入機関でデータ収集や調査活動を行うことで、学修成果をインターンシップ先での研究活動に還元する仕組みが構築されている。
- 複数国の受入機関ときめ細かく調整しながら、スポーツ・オリンピック学に関する国際的な研究環境を確保しており、専門性と国際的コミュニケーション力の双方を涵養する機会が提供されている。また学生自身が実習先を開拓する仕組みを取り入れることで、専門領域に適した環境を主体的に選択することが可能となっている。
- 研究計画に基づくインターンシップ先での協働活動の成果を評価しており、大学院生向けプログラムの評価として適正である。成長を専門的観点から捉える妥当な評価体系が組織的に機能している。

【取組の実施年度:令和6年度

申請分類:タイプ3(汎用的能力・専門活用型インターンシップ)】

問合せ先

筑波大学 スポーツ・オリンピック学学位プログラム
Tel: 029-853-3651 E-mail: tias-admin@un.tsukuba.ac.jp

Objectives	February				March				April				May				June				July			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
Settling Down																								
MTG with the school members																								
Understanding the school system																								
Visiting neighboring countries																								
Engaging with stakeholders																								
Monthly discussion with TIAS2.0/UT																								
Monthly meeting with FOGOJAPAN																								
Developing outcomes: Programme Implementation																								
Data Collection: Participants																								
Data Collection: Semi-Structured Interview																								
Process Evaluation																								

highlighting initial learnings and adjustments made to the original plan.

タンザニアの小学校でインターンシップをした学生の活動スケジュール

令和7年度大学等における学生のキャリア形成支援活動
表彰選考委員会 所見

今般、学生の能力伸長に寄与し、他の大学等や企業に普及するに値する産学協働によるキャリア形成支援活動をグッドプラクティスとして表彰し、その成果を広く共有することを目的として、大学、短期大学及び高等専門学校から、正規の教育課程におけるインターンシップ等のキャリア形成支援活動について公募を実施しました。公募の結果、大学から42件、短期大学から4件の計46件の申請がありました。

近年、就職活動の早期化が進む中で、学生が自身の適性或専門性を深く省察する時間を十分に持てないまま、進路を決めてしまうケースの増加が懸念されています。このようなキャリア選択は、入職後のミスマッチを招くだけでなく、大学での学びを主体的なキャリア形成に結び付けられないことが教育上の課題となっています。こうした状況下で、実社会での経験を通じて学びの意義を再確認し、自律的な進路選択を促すキャリア形成支援活動の質向上の重要性は、一層高まっています。

本年度は各大学等の活動が力強く回復しているだけでなく、継続的な取組において、これまでの工夫を生かしてより質の高いプログラムへと発展させている点が印象的でした。また、事前指導の体系化や受入機関との連携強化など、取り組みの成熟度が高まっていることが確認できました。

今回の選考は、「大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰選考基準」に基づき、

- ①就業体験を伴うこと
- ②正規の教育課程の中に位置付けられていること
- ③大学等の組織的な取組として位置付けられていること
- ④実施後の教育的効果を把握する仕組みが取られていること
- ⑤5日間以上のキャリア形成支援活動の就業体験期間が確保されていること
- ⑥大学と企業等が協働した取組となっていること

の6つの基準により書面審査及び合議審査を行いました。

選考の結果、最優秀賞として金沢工業大学、優秀賞として豊田工業大学、日本大学、広島大学を選定しました。これらの大学は、学内での学修と企業での実践を往還させる教育モデルを構築している点、長年にわたり組織的・継続的に地域企業との協働体制を成熟させ、産業界のニーズにも応えた学修機会を提供している点が特に高く評価され、選定に至っています。さらに、最優秀賞・

優秀賞とは別に、筑波大学を選考委員会特別賞として選定しました。本件は、博士前期課程学生を対象とし研究活動への還元と国際的な研究環境が確保されている点を評価しました。

また、惜しくも受賞を逃した取組の中にも、創意工夫に満ちた質の高い実践が数多く見られました。いずれも特色ある教育設計や受入機関との協働の工夫が随所に見られ、今後、各大学の参考となる事例が全国各地で展開されていることに、大変心強い思いを持ちました。本年度は応募のあった中で選考基準を満たしている全ての大学等の取組を「事例集」として広く公表することとしております。各大学等におかれては、相互に事例を活用し、引き続き連携・協力してキャリア形成支援の質向上に取り組んでいただければと思います。

学生を取り巻く社会・産業構造の変化が続く中、大学等におけるキャリア形成支援活動は、学びと実践を架橋する重要な役割を担っています。今後も、各大学等が活動目的や成果指標を明確化し、企業・地域との連携を一層強めることにより学生・関係機関にとって意義深いキャリア形成支援活動が推進されることを期待します。

令和8年3月30日
大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰選考委員会
委員長 佐々木 ひとみ

大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰選考委員会 委員名簿

- 青木 剛 公益社団法人経済同友会 会員業務部調査役 兼
一般社団法人インターンシップ推進協会 専務理事 兼
公益財団法人留学生支援企業協力推進協会 専務理事
- 有本 昌剛 関西外国語大学短期大学部 学長補佐・教授
- 桑畑 夏生 宮崎大学 地域資源創成学部 講師
- 栗田 貴祥 株式会社インディードリクルートパートナーズ
リサーチセンター上席主任研究員
- 黒髪 彩 一般社団法人日本経済団体連合会 教育・自然保護本部 主幹
- 佐々木 ひとみ 学校法人東京家政学院 理事・特任教授
- 高瀬 和実 岩手県立大学 高等教育推進センター・学生支援本部 准教授
- 藤岡 健 神戸市企画調整局局長
- 松高 政 京都産業大学 経営学部 准教授
- 山本 美奈子 山形大学 学士課程基盤教育院 准教授

計 10 名（敬称略・五十音順）